

地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽「二つの芽を結ぶ場所」+ 夢 + 遊眼「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学



「幸せづくり」は「平和づくり」

松本大学学長 中野和朗

私たちの願いはさまざまですが、「幸せでありたい」という願望は共通していると思います。松本大学は、その共通の願いを実現することを志とする“幸せづくり大学”です。幸せだの不幸せだのが問題になるのも生きていればこそです。全ては“命あってのモノダネ”なのです。命の最大の敵は戦争です。「センソウ」という名の人間同士の大量殺人行為が、“幸せでありたい”という願いを無惨にうち砕いています。ですから、平和が“幸せづくり”の絶対必要条件なのです。19～20世紀は文字通り戦争の世紀でした。21世紀には戦争がなくなる方向に歴史を転換できるかもしれないと期待されていますが、いまのところ状況は改善されそうもありません。日本では、戦後63年間「憲法第九条」のお陰で戦争によって一人も殺したり殺されたりするということがありませんでした。これは人類史の中で希有な喜ばしく誇るべき事柄です。ですから、「憲法第九条」は、世界中の戦争根絶を願っている人々の共通の宝物なのです。ところが、いま、心なき人たちによって「九条」が骨抜きにされそうになっているのです。“幸せづくり”のためには何としても平和の砦である「九条」は守り通したいと念願しています。

Topics

特集

地域づくりコーディネート実践

- ・キャンドルナイト2007冬至
inまつもと
- ・古い電車で新しい語らいの会
- ・Peace of mindイラク写真展
- ・天ぷら廃油Carエコ旅プロジェクト
2007
- ・こぶしの会Dayキャンプ

災害支援ネットワーク活動紹介

- ・被災地復興支援
- ・ボランティア活動報告会
- ・第三地区福祉ひろば防災研修会
- ・義援金贈呈ツアー
- ・やれ場inKOBE

学生の活動紹介

- ・伊那谷サマーキャンプ

つばやき

地域にはたくさんの宝があります。宝とはヒト・モノ・コトで、人材や資源です。ところがせっかく持っているものが地域の中で開花されずにいることに出くわします。また、良い活動があっても関係づくりができず、広がりを持たない活動が多く見られます。地域・社会が様々な課題や問題を抱える現在、新たな“コミュニティ”づくりにむけ、「立場や状況が異なる住民が会う」「住民の新たな参加を支援する（自分たちの地域は自分たちで築くという意識と仕組みづくり）」「ボランティア・NPO（市民活動団体）・地域自治組織・企業・行政をつなげる」「インフォーマルなケアとフォーマルなケアをうまく組み合わせる」ことが大切となります。そういったコーディネーション機能を担うコーディネーターの役割は大きいと感じます。

地域づくりに必要なコーディネーターについて、ボランティアコーディネーターの視点からみると、「ボランティアコーディネーターは、市民社会の実現をめざし、市民のボランティア活動を支援し、その実際の活動においてもボランティアならではの力が発揮できるよう、市民と市民または組織をつないだり、組織内での調整を行うスタッフ」と、日本ボランティアコーディネーター協会は定義づけています。ここでいう「つなぐ」は、「市民と課題」「市民と市民」「課題と課題」「専門職・専門機関と市民」「生活課題を抱えている人とその解決を応援する人」「多様な分野の活動をしている人同士（分野を越えて）」「有志型市民活動団体（NPO）と地域自治組織」等です。

ボランティア・地域活動コーディネーターの基本的役割は、「人々の参加意欲を高める（自発性の援助）」「人々がともに課題解決に取り組むことを支える（協働関係の援助）」「活動を通して把握した問題点をともに訴えていく（問題の社会化の援助）」です。コーディネーターはその時々で、プランナー（企画者）、プレーヤー（活動者の意識や気持ちがわかる）、プロデューサー（仕掛け人）、プロパガンダ（宣伝）、マネージャー（組織運営）、ネットワーク（むすぶ・つなげる）、ファシリテーター（引き出し役・支援者）の役割を担います。

その中で、今注目を集めているのがファシリテーター機能です。現在、まちづくりばかりではなく、企業・組織・グループ・地域などで活躍するリーダーに必要な役割として注目を集めています。これからのリーダーは、多様な人材を前提とし、問題解決、コミュニケーション、マネジメント能力で組織のパワーを引き出し、優れた問題解決を導き、成果を上げることが求められています。

今号では、松本大学学生が地域活動の取り組みで行っているコーディネート実践を特集して紹介します。

（松本大学地域づくり考房『ゆめ』地域づくりプランナー 福島明美）

ボランティア・地域活動 コーディネーターの8つの役割

- ① 受けとめる（ニーズ・活動希望者の受付）
- ② 求める（募集・活動の場の調整）
- ③ 集める（情報の収集・整理）
- ④ 知らせる（広報）
- ⑤ まとめる（記録・統計）
- ⑥ 高める（学びの場づくり）
- ⑦ 創る（ネットワーキング・アクション）
- ⑧ 結ぶ・つなぐ（調整・紹介・組織化）

ファシリテーションとは

グループの目的達成プロセスが、効果的・効率的に行われるよう支援することを、ファシリテーションと呼んでいます。ファシリテーターとは、まち育て・まちづくりにおける人々の出会いの場において、参加者ひとりひとりのキモチを高め、課題解決の状況づくりの方向とキモチ合わせの流れを促す人、キモチづくりと状況づくりを支援・推進する人のことをいいます。

ファシリテーション入門講座

9月20日に「会議が変われば地域が変わる！」をテーマに考房『ゆめ』主催で、NPO法人まちの縁側育み隊代表理事で愛知産業大学大学院教授の延藤安弘先生を講師に、学生や地域の人が共に学び合いました。

「ファシリテーターとは」「ファシリテーターマインドを触発するげんと〜く（幻燈とお話）」「わかりやすい書記さんとしてのファシリテーター演習」「状況づくりの提案と合意形成のためのワークショップ」「ふりかえり」と進められ、ワークショップではグループごと数枚の写真を使って物語づくりを行うなかで、提案と合意形成の手法を実践的に学びました。

【キーワード】

- ・自由発想・冒険の企て
- ・一人ひとりが輝く居場所づくり
- ・食べにケーションはコミュニケーション
- ・ワクワク&リーズナブル
- ・ものがたりのようなまち育てへ



キャンドルナイト 2007冬至 inまつもと



12月21日に「キャンドルナイト2007冬至inまつもと」が行われ、9名の学生がスタッフとして参画しました。電気を消して、ろうそくの光でスローな夜を楽しんでもらう狙いで、当日は新村保育園の園児達がメッセージを書いたキャンドルなど、500個以上が大名町通り付近に並びました。

私たちは、12月21日に松本市の大名町通りで行われた「キャンドルナイト」に参画しました。キャンドルナイトというのは、「自然な明かりでスローな夜を」をスローガンに、電力を極力使わずに、通りをろうそくのやわらかな明かりで彩り、皆に環境について考えてもらうイベントです。一昨年に行ったようで、私たち学生は「今年も同じことをやるんだろうなあ」という軽い気持ちで活動に参加しました。しかし、急メインであるライブが中止になったり、今年は若い人の意見を参考にしたいということもあって、私たち学生はほぼゼロからのスタートに立つことになりました。

毎週火曜には市役所に行き打ち合わせをし、それ以外の日には学校や街に出て、私たちで考えた案を検証したりしていきました。「初めて作り上げていくものは失敗が必ずある」まさにその言葉の通り、日々失敗や困難な問題の連続でした。しかし、その中で確実に「地域の方々と大きなものを創りあげていくことの大切さ」を感じとれたと思います。

当日はキャンドルの準備が予想以上に大変で、松本城付近に置いたキャンドルにおいては開始時間を大幅に過ぎてからの点火になってしまいました。しかし、一つ一つの灯りはこれまでの苦労がようやく形になったという証になりました。当日の集客数はほんの僅かでしたが、来てくれた人全員が笑顔でイベントに参加してくれて本当に良かったです。課題は非常に大きいですが、次のキャンドルナイトへの大きな一歩になりました。この活動をしてきて、いろいろと勉強になり本当に良かったです。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 市村 一裕さん)

古い電車で 新しい語らいの会

会の
マスコット
です。



古い電車で新しい語らいの会では、「新村駅」というお宝を活かし、地域の縁側となる(憩える)場所づくりを目指して活動しています

今までに、新村駅で保存されていた「ハニフ1号」を鉄道博物館に送り出す時に行われたイベントへの参加、この会を多くの方に知ってもらうために行った新村駅前の花壇作り、他にも上田電鉄の取り組み視察や上高地線の乗車見学会、大学祭での活動紹介など、様々な取り組みを行ってきました。

これらの活動は学生だけでなく、地域の方や松本電鉄の方と一緒にを行っています。

また、いろいろな活動を通じて様々な方とのかかわりも生まれています。様々な分野で活躍されている方と一緒に活動することにより、様々な意見やアイデアが出されて、思いもよらないもの(こと)が形になっていきます。「こうしなければならない」というものはないので、1つ1つ作り出していく楽しさもあります。新しい知識や物の考え方など、多くの刺激を受け、得るものもたくさんあります。時には意見がぶつかり、なかなか話が進まないこともあります。

これから、より多くの方に参加していただき、新村だけでなく活動領域を上高地線の沿線上の地域まで広げ、それらの地域の活性化につながるような取り組みを行っていきたくと思っています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 隠居 綾さん)

Peace of mind 「イラク・病院内 学級の子ども達」 写真展



イラクで劣化ウラン弾の被害を受けている子ども達。一人でも多くの方にこの事実を知ってもらいたいと、Peace of mindでは、これまでの活動を通じて出会った方々と協働して開催しました。

梓乃森祭での写真展は、今のイラクの現状を知ってもらうということもありますが、イラクでの戦争や経済制裁で亡くなった方々、そして癌や白血病で苦しんでいる子ども達への謝罪という意味を込めて写真展を企画しました。

9月9日の公民館祭りで偶然にイラクの南部にある病院で院内学級の先生をしていらっしゃるアブラハム・イブラヒム先生と出会いました。イブラヒム先生のお話を聞いて、多くの人にこの人を知ってもらいたい、この人の手助けをしたいと思いました。その思いが平和問題に取り組んでいる小野さんやPeace of mindのメンバーを始め多くの人に共感を得て、一緒に写真展を開催することになりました。写真は、病気と闘ってる子供たちの姿を見てほしいとの思いから、イブラヒム先生の所属しているイラクの医療サポート団体Jim-Netからお借りました。

また、現地の写真を見るだけでなく、イラクをより身近に感じてもらえるように、イラクで使われている物や食べ物を小野さんに協力してもらい展示することができました。

今回は、去年の反省を生かして、また、活動に多くの理解者ができたおかげで、チラシを高校や他大学、地域の方にも配布し、広く大学外へ宣伝することができました。メンバーが増えたことや、隣の部屋のスタッフの協力で学園祭の中で呼び込みなどもでき、多くの人に写真展に足を運んでもらえました。写真展を通して、より深くイラクのことや世界のことを考えてもらうきっかけになりました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 下澤 裕一さん)

写真展アンケートより

・子ども達の絵が多く展示されていて、温かい気持ちになりながら、どうしようもない悲しみが同時にあふれてきました。罪のない子ども達が苦しみ、助かる筈の病気も薬がなくて助からない。この現状を、どれ程の人が知っているのでしょうか。みんなニュースだけを見て、知ったつもりになっている気がします。

・子ども達のありのままを出した、あまり見ることができない貴重な企画でした。悲しみの中にも希望があふれる子ども達。一つ一つの絵や文がとても印象深く、今の世界平和ってどうなっているんだろう？と考えさせられました。

私は、侵略戦争の被害者にも加害者にもならないことをライフワークにしてきました。Mウイングの「花時計祭り」で地道に平和について考え、行動する若者(松本大学下澤さん)に会って嬉しく、何か役に立てればと思いました。

大学祭の写真展には意外に大勢来てくれて真剣にアンケートを書いてくれました。また、「懇話会」は皆が話したいことを話して最後は拍手がわきました。私にとってとても楽しい一日でした。

これからの社会は若者が主役です。若者にもっと真剣に社会の有り様を考えて欲しい。世界の戦争問題、格差社会で生きられない人がたくさん出てきている問題、人間の尊厳が地に墜ちている、等々。歴史を見ると、いつの時代も若者が社会変革の先頭に立っています。「しっかりして！若い人たち！」と叫びたいです。

(松本市里山辺 小野 千鶴さん)

天ぶら廃油Car エコ旅 プロジェクト2007



♪
たくさんの方々の
御協力をいただき、
プロジェクトを達成
することができました。
ありがとうございました。

昨年度は西日本を一周した企画の第2弾。今年度は、長野 北海道間の約3500キロを夏休み中の26日間かけて旅し、環境問題を多くの方々に考えていただくきっかけとなりました。

私は天ぶら廃油Carエコ旅プロジェクトにマネージャーとして参加しました。マネージャーは初めての挑戦でしたが、想像していたより多くの仕事と責任をもたなければならず、プロジェクト中は緊張の連続でした。具体的な作業は、車の手配、寄付金や廃油収集のお願い、宿泊や訪問先との打合せや、現地のメンバーが旅程どおりに進んでいるかを確認し、活動状況をブログで紹介して環境問題の啓発をすることなどです。一つ一つを積み重ねることで、活動がスムーズに運びました。

現地のメンバーの負担を少なくすることが自分の仕事であり、マネージャーとしてのやりがいを感じた点でした。

また、問題が発生したときには落ち着いて状況を把握することが大切と実感しました。忙しい時ほどこの作業を忘れがちになるのですが、反省をすぐにその場で活かすことで作業上の短所を見つけやすく、同じ失敗を繰り返さないように強く意識することに繋がります。この方法で、失敗を克服することができました。多くの経験と自分自身の課題を見つけることのできた充実した期間でした。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科1年 柴田 陽一さん)

東北公益文科大学 活動紹介

東北公益文科大学では、有志の学生が「SAKATA MUSIC FESTIVAL」という、近くの商店街のお祭りの運営に参加し、音楽とエコを取り入れ商店街を活性化すべく積極的に活動しています。

松本大学地域づくり考房『ゆめ』

学生チャレンジ奨励金	100,000円
松本大学教職員寄付金	65,000円
松本市建設業協会寄付金	20,000円
まちづくり活動塾参加者有志寄付金	36,000円
国営アルプスあずみの公園 スタッフ有志寄付金	29,500円

もし私が学生だったら、1ヵ月間もの休みがとれて旅立つことができたとしたら。もしかしたら天ぶら廃油Carを貸してあげなかったかも知れません。できれば自分自身で「エコ旅」を試みたかった、それが本音なのです。で、もし私が「エコ旅」をするのなら、やっぱり自分でクルマを加工して行く先々で廃油をもらって濾しながら旅を続けたい。

もし、また松本大学の有志が集まり「エコ旅」に出るならば、ぜひクルマも燃料も自らの手で！その方が断然おもしろい旅になるはずですから。

(車両提供者

長野市 新井 秀一さん)

今回、松本大学の皆さんが、エコ旅の途中で私たちの大学に寄ってくださり、エコ旅メンバーと交流することで、私たちの活動における「エコを広げる」ということへの意識が高まりました。

最初にエコ旅の話を知った時、廃油で車が動くななんていったいどんな改造を施しているのかと、ゴツツイ車を想像していたのですが、実際に廃油Carを見ると、外見は普通の車と同じということに、まず驚きました。さらに、車からは天ぶらの香ばしい匂いが！！近くにいるだけでお腹が空いてきました。

普段は何気なく捨てている「天ぶらの廃油」が、車を動かすエネルギーになるなんて、今まで考えたことが無かったので、今回の交流は実に有意義なものでした。「エコを楽しむでやる」ということが、私たちに共通するキーワードでした！

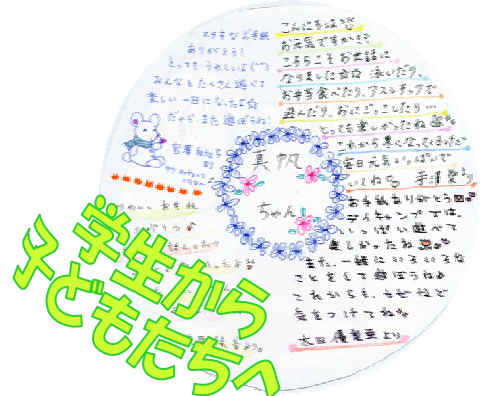
(東北公益文科大学3年 種澤 真信さん)

こぶしの会 Dayキャンプ

こぶしの会は、自閉症や高機能アスペルガー症の子ども達の自律支援と、保護者やボランティアの方々の療育学習を目的に中信地域の方々に構成されている会です。この会が行う夏と秋のDayキャンプに社会福祉士を目指す学生を中心に、会との協働で取り組みました。



子どもたち
からの手紙



6月21日に、こぶしの会で初めての打ち合わせがありました。保護者の方は皆、優しく親切な方々で笑顔が素敵でした。初めての顔合わせでドキドキしていましたが、少し緊張がとけました。最初に、こぶしの会について保護者の方のお話を聞きました。次にDayキャンプの目的に添ってスケジュールを決めました。そこで思ったことは、人の話を聞くことの難しさでした。

また、次回行う子ども達との合同のこぶしの会の会場を決めるため、大学案内をし、体育館や教室を見てもらいました。私達は、チケット作りや当日スタッフボランティアをする学生を募集することにしました。学校で福祉を専攻している学生のほとんどに声をかけました。また、「インターンシップ」の授業を通じて何回か声をかけました。しかし、目標人数まで達せず、これがなかなか大変な仕事でした。Dayキャンプ参加学生との間に入って連絡調整や会場取り、バスの手配等行いました。すべて初めてのことでしたが、仲間や保護者の方、教職員の皆さんに支えてもらい、無事活動を進めることができました。事前に自閉症についての勉強会を皆で行い、実際に自閉症の子ども達と遊びました。自閉症児に関わるということ自体が皆初めての経験で、戸惑いもあり、うまく子ども達と接することができませんでした。

8月25日、いよいよ本番、Dayキャンプ当日。アスレチック、ゴーカート、プールをしました。この一日で、かなり子ども達と仲良くなれました。すごく楽しい一日でした。障害があってもなくても、子ども達と接するために大切なことは、笑顔で自然に接することだと思います。何回もの打ち合わせや事前学習を通して、当日がスムーズに行えたのだと思います。今回の活動を通して「ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）」の大切さを学びました。このこぶしの会に企画・参加したことで、色々な面で勉強になりました。

（総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 北林真里子さん）

災害支援ネットワーク活動紹介

被災地復興支援 大学祭で海産物販売



私たち災害ボランティアグループは「被災地復興キャンペーン2007」で義援金活動や被災地へのボランティア活動をしています。大学祭では能登・柏崎の復興支援をしようと考え、海産物販売を企画しました。私は仕入担当になりましたが、初めての事で何をしたらいいのかもわからない状態の中、品物や金額など先方と何回も連絡を取り準備を進めました。

しかし、大学祭当日に届いた商品を見てみると、入れてくれると言ったものが入っていなかったり、要らないと言ったものが入っていたり行き違いがあり、取引の難しさを知りました。販売初日は、なかなか売れなかったのですが、2日目は徐々にお客さんも増えて当初の売上目標を上回ることができました。今後もこの経験を活かして被災地への支援を行っていききたいと思います。

（松商短期大学部2年 鈴木 絵里さん）

ボランティア 活動報告会

10月11日に、夏休み中に行った中越沖地震災害救
援ボランティア活動の報告会が学内で催されました。
活動参加状況は、8月7日～9月17日までの間に学生
延べ72名、教職員延べ39名でした。



今回ボランティアに参加して、いろいろなものを得ることができました。私たちが活動していることで、被災者の方々に喜んでもらえることが本当に嬉しかったです。また、連携をした長野大学の学生と楽しく活動することで、交流ができました。最初はボランティアというものにあまり興味がありませんでしたが、被災者の方々がなかなか人には頼ろうとせず、自分で何とかしようとする姿を見て「自分ができる事で被災者の方々の役に立ちたい」という気持ちになりました。

長野県に帰って来てからは、多くの人前でボランティア活動を発表する機会が何回もありました。私たちが学んできたこと、ボランティアで得られたこと、現地で大切なこと、災害が起きた時の対処方法などを発表しました。被災したとき何をすれば良いのか、そして「ボランティアに頼っても良い」ということを多くの方に知ってもらいたいです。

全国各地から被災者の方々を助けようと集まってくる人達がいることは素晴らしいことで、一人でも多くの人が「人を助けたい」という気持ちを持てば、思いやりの心が広がっていくと思います。そういう役割ができれば、今回ボランティアに行った本当の意味があると思います。人と関わる上で一番重要なことは、相手の人の気持ちを思いやるということだと思います。今回の経験で人間として一回り大きくなれたと思います。これからの人生に生かしていきたいです。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 鈴木 大地さん)

第三地区 災害ボランティア 活動研修会

11月26日に、新潟県中越沖地震での災害支援活動について松本市第三地区から依頼があり、学生メンバー数人と福島先生とで発表を行ってきました。会場いっぱい参加者に、少し緊張しながら始めました。支援活動について発足からの経緯を話し、次に学生が被災地で行ったボランティア活動について発表し、最後にそれぞれの感想を述べました。参加した地域の方からは、「現地での活動で、どんなことが大変だった?」といった質問などを受けました。全ての方が災害について意識を高めていてくれ、また自分たちの意見や、体験活動を生で伝えることができ、とても意義ある発表でした。

(総合経営学部総合経営学科1年 菊池 浩平さん)

12月22日、長野大学と合同で夏休みに災害ボランティアに参加した、中越沖地震が発生した新潟県柏崎市を訪れました。

震災からおよそ3ヶ月。現地は今なお、復旧されていない箇所が数多くあり、コンクリートが剥がれたままの歩道、倒壊した家屋がいくつも見られました。

久しぶりに柏崎市のボランティアセンターを訪れると、9月にあった本部のテントは当然無くなっており、違う場所のように見えました。会議室をお借りし、代表の方から話をお聞きすることができました。今現在、柏崎市が行っている対策、被災者へのメンタルケア、仮設住宅の設備について・・・現地の生の声が聞けることはとても貴重なことでもあり、良い経験をさせて頂きました。また、学生である私達からの質問にも分かりやすく説明して下さい、状況も詳しく話して下さいました。

こうして聞いていると、まだ自分に出来ることは何かあるのではないかと・・・と、ふと考えます。松本大学にも新潟県出身の学生は少なくありません。他人事と考えず、身近な問題として多くの学生と共に考え、積極的に行動して行きたいものです。

(人間健康学部スポーツ健康学科1年 橘木 奈津子さん)



義援金 贈呈ツアー

ご協力
ありがとうございました!

ツアーの目的は、柏崎市ボランティアセンターに直接募金を渡し、3ヶ月経った現地の状況を知り、今後のボランティア活動について話し合うことでした。計画には海鮮料理の食事会や白鳥の集まる湖の観光などで参加者同士の交流を深めることもありました。

大学が違う人とも積極的に接している人が多く、明るい雰囲気でもとてもよかったです。私の目的としては、お互いの学校の良いところを知り、学生同士の仲を深めていくことです。意見交換を行い、お互いの良い点を吸収し、今後の学校生活の向上に役立てたいと思います。今後も、このような長野大学と協力した、継続的なボランティア活動を計画していきたいです。

(人間健康学部健康栄養学科1年 藤澤 唯さん)

義援金総額
216,351円
中越沖地震復興支援
募金 131,810円
大学祭バナー売上
84,541円

全国 災害研修会 やれ場 in KOBE

10月7日～8日に、ボランティアや災害、福祉の分野で活動している人たちが全国から300名集まり、ワークショップや展示などで自分たちの活動を知ってもらい、互いに刺激しあい、磨きあう機会として神戸学院大学にて開催され、松本大学の活動紹介も行いました。6日には、事前学習として「人と防災未来センター」を見学し、地元高校生や他学生と交流しました。



ボランティアの経験も浅く、災害に対する知識もほとんど無かった私にとって、今回の「やれ場」は多くのものを学ぶ機会となりました。全国からたくさんの学生や社会人の方が集まり、それぞれの考えや、抱える問題を話し合ったりすることで、お互いに刺激し合うことができたと思います。私が特に感じたのは、阪神淡路大震災で被災した経験のある学生の「災害」に対する考えの深さでした。「人と防災未来センター」で阪神淡路大震災の映像型体験をした際、案内をしてくれていた地元高校生が、何人も涙を流しながら立っている姿を目の当たりにして、今まで軽く考えがちだった「被災者の心の傷」の深さや、災害の恐ろしさを思い知りました。

また、ワークショップや展示では、各団体の活動に触れ、同じ「災害」についての活動でも、たとえば小学校などで防災教育を行う「出前教育」であったり、耐震強度を無償で測定する活動であったりと、さまざまな形があるのだと気付かされました。

今まで先生の力を借りて色々な活動をしてきましたが、今回全国には同じように「防災」に関わって活動している人たちがたくさんいる、という事が分かり、励みや目標になったので、これからはそういった人たちとも交流をしたりして、活動の幅を広げていけたらいいと思います。
(松商短期大学部2年 原 澄香さん)

伊那谷 サマー キャンプ

夏休み期間中、信州伊那谷こども村サマーキャンプが阿智村にて行われました。東京・名古屋方面から多くの小中学生が参加し、高校生・大学生ボランティアの協力を得て毎年実施されています。今年の活動に当大学でも、6名の学生が各々3泊4日の行程でボランティアに参加しました。



私たちは8月26日～29日までの4日間、伊那の子ども村で行われたキャンプに相談員として参加しました。長い夏休みに有意義なことをしたいと思ったからです。

1日目は、名古屋と東京から来た子ども達約100人を迎えて開会式を行いました。開会式では班ごとに分かれ、自己紹介を兼ねたゲームなどをして子ども達と仲良くなりました。2日目は全員で川遊びを行ったり、班ごとに自分達で考えた遊びをしました。夜は肝だめしやレクリエーションをして楽しみました。3日目は自分達で考えた遊びをし、夜はお別れ会をしました。お別れ会は各班で考えた子ども達の個性的な出し物や相談員達の出し物で、この3日間でそれぞれに感じたことを分かち合い、最後の締めくくりをしました。4日目は子ども達を見送り、3泊4日のキャンプを終えました。

4日間の中で、子ども達にとっては初めての環境と新しいお友達で、たくさんの不安やホームシックなどの問題もありましたが、とても成長したと思います。私たち自身も子ども達から学ばされることが多くありました。寝られなかったことや辛いこともありましたが、たくさんの人達と出会うことができ、とても良い経験になりました。
(人間健康学部健康栄養学科1年 曾根原千彰さん、藤沢はるかさん)

つばやき

10月に、山形小学校の子ども達と一緒にさつまいもを掘りに行ってきました。傷つけないようにさつまいもを掘らなければいけないので、宝探しをしているような感じがしました。たくさん採れたさつまいもはみんなで洗い、薄く切ってホットプレートで焼き、ごま塩をかけて食べるという新しい調理の仕方を使って、みんなでおいしく食べました。

子ども達と交流でき、秋の味覚も堪能できたとても良い1日でした。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 松川 仁美)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/